



HARUNA
SHINOYAMA

篠山春菜

1994年 東京生まれ
ヴァイオリニスト



Instagram

4歳よりブラジルにてヴァイオリンを始め、幼少期から音楽への情熱を育む。帰国後は、桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」にて鈴木亜久里氏に師事。その後、ジェラルド・プーレ氏、加藤知子氏に師事し、桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）、桐朋学園大学音楽学部を経て、オーストリア・ザルツブルクへ渡り、モーツァルテウム音楽大学にてピエール・アモイヤル氏およびライナー・シュミット氏（ハーゲン弦楽四重奏団）に師事。2015年よりBeija-flor弦楽四重奏団のメンバーとして活動し、現在はシブラン・シェラ氏（キロガ弦楽四重奏団）に師事している。

これまでに、オレグ・クリサ氏による河口湖セミナーやイゴール・オジムのクロンベルク・アカデミーなど、国内外の著名なマスタークラスやアカデミーに参加し研鑽を積む。ソリストおよび室内楽奏者として、日本、ブラジル、台湾、カナダ、ヨーロッパ各地で演奏。ザルツブルク音楽祭ユースプログラム『schräg/strich』、国際モーツァルト週間（ザルツブルク）、パウ・カザルス国際音楽祭（スペイン）、ブダペスト音楽祭（ハンガリー）、フェスティバル・ラトヴライカ（スロベニア）、キジアーナ国際音楽祭（イタリア）、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭（ドイツ）などに出演。

これまでに、ウィリアム・コールマン氏（クス四重奏団）、ルカ・ピアンカ氏（リュート）、ヴィットリオ・ギエルミ氏（ヴィオラ・ダ・ガンバ）、ジョナサン・ブラウン氏（元カザルス四重奏団）、アレクサンダー・メルニコフ氏（ピアノ）らと共演。

ソリストとしては、秋山和慶、梅田俊明、カイ・レーリヒ各氏の指揮のもと、とくしま記念オーケストラ、名古屋フィルハーモニー交響楽団、ザルツブルク・チェンバー・ソロイスト、ドゥエ・モンディ室内合奏団、バート・ライヒェンハル・フィルハーモニー管弦楽団などと共演。

モーツァルテウム音楽大学ではコンサートマスターも務め、ブルーノ・ヴァイル、マキシム・ヴェンゲーロフ、ハンスイェルク・アルブレヒト、イオン・マリッ、カイ・レーリヒ、ゲルノート・ザーラー各氏と共演。

2016年には、際立って優れた演奏家に贈られる「ポール・ロチェック賞」および奨学金を受賞。

2019年以降、カメラータ・ザルツブルクに定期的に出演するほか、ポーランドのグロツワフ・バロックオーケストラにも出演。

主な受賞歴に、2010年「霧島国際音楽祭賞」、同年「大阪国際音楽コンクール」第1位、2012年「ルーマニア国際音楽コンクール」弦楽器部門第1位、同年「日本クラシック音楽コンクール」グランプリ、2015年「珠海国際モーツァルトコンクール」第1位、2016年「レオポルト・モーツァルト国際ヴァイオリンコンクール」室内楽特別賞、2017年「ルッジェーロ・リッチ・コンクール」上位入賞、2018年「ドビュッシーコンクール」上位入賞および聴衆賞などがあり、これらの実績を通じて、ヴァイオリニストとして高い評価を得る。

2024年、国際モーツァルテウム財団による新ケッヘル目録発表に際し、W.A.モーツァルトの新発見作品《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク KV648》の世界初演および初録音を行う。その録音はドイツ・グラモフォンよりリリースされた。2025年には、モーツァルトの誕生日を祝してザルツブルクで毎年開催される音楽祭「国際モーツァルト週間」にて、同作品の再演を果たした。